

2017年度 PFFPに参加して

2018年度PFFP/NFP説明会

2018年4月26日（木）

情報科学研究科 人間社会情報科学専攻

認知心理情報学研究室

情報リテラシー教育プログラム

博士後期3年 菅井 道子

研究分野：認知心理学／教育工学／学習科学

社会人院生：大学／高校／専門学校 非常勤講師

（情報教育）

参加以前の悩み／参加の動機

- 大学教員としてどのようにふるまったらよいのか自信がない
- シラバスの正しい作り方を知りたい
- ふりかえりのさせかたを知りたい
- 大学での教育と
中等教育や専門学校での教育との相違点と共通点が知りたい

【同期の方は・・・】

- 研究者としては自信があるが、教員としては自信がない
- 日本における高等教育の特徴や課題を知りたい（外国人教員）
- 他教員の「教えるスキル」への関心がある
（他人の授業を観察して授業に活かしたい）

大学教員としてどのようにふるまったらよいの？

プログラムのコンテンツ

大学教員の仕事と専門性（オリエンテーション）
比較の目を育てる（オリエンテーション）

仕事を理解する

先達から学ぶ

比較の目を育てる

同僚とつながる

参加前

- ・ 指導教員などの仕事を見て、なんとなく理解している程度
- ・ 比較するということについてはノーマーク

参加後

- ・ 研究分野の専門家であるだけでなく、大学の組織の中で授業もする、大学の運営にも関わる・・・など多様な仕事をこなすことを理解
- ・ 常に同じところに留まるのではなく発達ステージがあることを理解
- ・ 先生方の行動をよく観察するようになった
- ・ 中等教育／専門学校との違いだけでなく、異分野の教育との相違点・共通点も考えられるようになった
- ・ 異分野の研究者の視点や考え方が大変参考になることを理解

大学教員としてどのようにふるまったらよいの？

プログラムのコンテンツ

授業づくり：準備と設営
大学生のクリティカルシンキングの育成
学生理解と学生発達
コーチング技能を活用した学生指導

仕事を理解する

基礎知識を得る

実践力を磨く

先達から学ぶ

比較の目を育てる

同僚とつながる

参加前

- 教育工学分野にいるため、わりと理解しているつもり

参加後

- 知っていることを確認し、活用することを意識
- 異分野の人が知らない分野であることを知っておくことは、異分野の人と協働する上で重要であることを知った

大学教員としてどのようにふるまったらよいの？

プログラムのコンテンツ

授業を見る聞く学ぶ：授業参観

先達から学ぶ

参観前

- 大学で教えることに自信があまりない
- 大学での授業を見て教える際の参考にしたい
- 学生の様子を観察したい

参観後

- 立ち居振る舞いがわかり、大学で教える自身がついた
- 学生の反応が予測つくようになった

大学教員としてどのようにふるまったらよいの？

プログラムのコンテンツ

授業を見る聞く学ぶ：授業参観

先達から学ぶ

感想など（自分／同期）

- 授業参観のあとのディスカッションで、先達教員の方々は惜しみない情報提供をしてくださり、大変ありがたいと思った。
- 先達教員の方々が想像以上に工夫や努力をされていることに驚いた。
- ICTを駆使した授業に感動していた参加者が多かった
- 私たちが受けた授業は、現代の学生には適用できない。
- 自分の授業を産学共同研究に直結させる良い事例を見させていただいた

シラバスの正しい作り方を知りたい

プログラムのコンテンツ

授業デザインとシラバス作成

基礎知識を得る

実践力を磨く

参加前

- 「シラバスってこれでいいの？」に周りの誰も答えられない
(毎年もやもやしていた)
- 主にテキストの章や節の見出しを並べていた
- 深く考えず短時間で作成

参加後

- もやもやがすっきり
- 学習評価や学生にさせる課外学習時間も含めて計画
- 深く考え、時間をかけて作成

大学教員としてどのようにふるまったらよいの？

プログラムのコンテンツ

マイクロティーチング

実践力を磨く

実践前

- 話し方や表情，目線，動線のクセが気になっていた
- 高校や専門学校で「教える」技術には多少の自信あり

実践後

- 自分が気にしていたクセに関する指摘が少なかったのが意外
- 評価が分かれた項目については，その後の授業で慎重に対応

感想（自分／同期）

- 授業の準備の大切さを改めて感じた
- 自分の授業を映像で振り返ることは授業の改善につながる
- 思ったほどひどくなかったので自身がついた
- 自分の悪いクセが明らかになった
- 先達教員のコメントが厳しくも，優しくもあり，ありがたかった

ふりかえり(リフレクション)のさせ方を知りたい

プログラムのコンテンツ

リフレクションについて
リフレクティブジャーナルの執筆

基礎知識を得る

自己省察力を養う

参加前

- 学生にふりかえりをさせるも、導き方が合っているのか不安

参加後

- 自分がふりかえりをすることで、
ふりかえりの指導ポイントが明確になった
- 自信をもって導けるようになった

リフレクティブジャーナルについて、自分・同期の感想

- 仕事や研究の繁忙期と重なったときは辛かった
- スタッフの方々からのコメントがありがたく、励みになった
- うつつとやっていた → やってみて良かった

大学と中等教育や専門学校との教育における相違点と共通点が知りたい

プログラムのコンテンツ

すべてを通して

参加前

- 中等教育よりも高度な教授スキルを求められてと思っていた

参加後

- 「教える」技術は相違ない。
(初等中等教育の先生は、高等教育の先生から「教え方」を学んでいるのだから)
- 学生の発達レベルを考慮する必要がある
- 肩肘張らずに自然体で大学でも授業ができるようになった

そのほかに・・・

プログラムのコンテンツ

セミナー中に行われるワークショップ
懇親会

同僚とつながる

貴重な情報交換の場。積極的に企画・参加を！

プログラムのコンテンツ

ISTU（東北大学インターネットスクール）

復習のために有効に活用するとよい

最後に

プログラムの達成目標

- 生涯にわたり専門性を高めるために，効果的な省察ができるようになる
- 大学教員の役割，仕事を理解し，展望を持ってキャリア構築を設計できる
- 教育活動に関する基礎的知識を身につけ，自分の言葉で教育観を語れるようになる
- 異分野の研究や教育文化を知る

地味に忙しい < 得るものが多い

自分の学生によりよい学びを提供したいという向上心がある方へ
お勧めします！